

# 新しいかたち

—ろうそくが灯す浄土のあかり—

## 「平泉町みんなでつくるまち委員会」の設立

地方分権社会の本格的な構築が進み、社会経済情勢が大きく変化する中で、自治体においては自己決定・自己責任のもとでの財政運営を確立するとともに、町民が求める多種多様な行政ニーズに対して的確に対応していく必要があります。しかしながら、依然と厳しい当町の財政状況や人的状況を踏まえ、町民が求める多くのニーズに行政主体で対応していくことはますます厳しい状況にあります。

そこで、町民自らが地域のことを考え、主体的に行動し、行政と一体となって地域づくりを進めていくことがまちづくりへとつながり、このことが地域力の向上にもつながっていくものと考え、平成25年3月に町では「平泉町協働のまちづくり計画（行動指針案）」を策定しました。

そして町民と行政がそれぞれの役割と責任を分担しながら、共につくる協働のまちづくりの実現に向けたプロジェクトとして「平泉町みんなでつくるまち事業」が立ち上がり、25年6月に「みんなでつくるまち委員会」が設立されました。

委員会では協働のまちづくりを進めるにあたっての観光・世界遺産に対する課題や、人口減少・少子高齢化などに対する課題について話し合い、地域が抱える課題の解決に向けて検討していきました。



平泉町みんなでつくるまち委員会の様子

## 町の事業がきっかけでプロジェクトが誕生

「平泉に住んでいる人たちが、自分自身が楽しめ、平泉に暮らしてよかったと感じるまち」をコンセプトに、平泉を自慢でき、平泉にしかない、捨てられていたものを再発見するなどいろいろと事業の方向性について委員会が模索しました。そして検討を重ねた結果、中尊寺や毛越寺では、日常的にろうそくが使われ



毛越寺本堂で使用しているろうそく

ることから、使用済みのろうそくがたくさん出ているという情報を得て、「廃ろうそく」という存在にたどりつきました。産業廃棄物として処分されていた廃ろうそくをリサイクルすることは、世界遺産平泉の理念に叶うことであり、平泉の景観美化にもつながります。

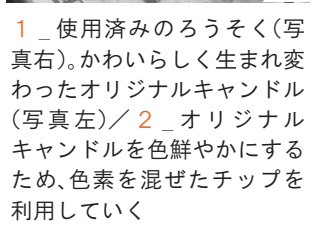
事業の方向性が決まったことにより、次は果たして廃ろうそくがオリジナルキャンドルとして利用できるのかの確認でした。アロマキャンドルを制作しているSORANOIRO代表の齋藤真知子さんを講師に招き、キャンドル作りの技術を学びました。その結果、廃ろうそくは色鮮やかなかわいらしいオリジナルキャンドルに生まれ変わりました。

## 町民が主体の世界遺産キャンドルプロジェクト

現在、廃ろうそくを再利用したオリジナルキャンドル作りは、世界遺産キャンドルプロジェクト実行委員会が実施しています。

そしてキャンドル作りに欠かせない色素の入ったチップの作成作業では、大人だけでなく子どもたちも参加しています。

世界遺産キャンドルプロジェクトは観光客と平泉を結びつけるだけでなく、町民同士の絆を結びつけ、交流の場としても機能しています。



1\_使用済みのろうそく(写真真右)。かわいらしく生まれ変わったオリジナルキャンドル(写真真左) / 2\_オリジナルキャンドルを色鮮やかにするため、色素を混ぜたチップを利用していく

3\_色素を混ぜたチップを作成しているところ。難しくなってきたためでも作成できる / 4\_たくさんのチップを作成中 / 5\_右から作成年数が古い順。以前は大きいのが主流だったが、最近はお小さくて色鮮やかなものが多い



## 平泉の新たな魅力づくりへ